

彙報

会長 定延 利之

——常任委員会——

日本語学会 2024 年度第 2 回常任委員会

日時：2024 年 10 月 27 日（日）18:00～19:30

場所：オンライン

出席者：定延利之（会長）青木博史，上山あゆみ，菊澤律子，小林正人，滝浦真人，千田俊太郎，中山俊秀，広瀬友紀，堀江薫，松浦年男，宮本陽一（以上，常任委員），南本 徹（事務局長）

オブザーバー：加藤重広（編集委員長），小町将之（大会運営委員長），杉崎鉦司（広報委員長），木山幸子（夏期講座委員長），滝浦真人（学会賞選考委員長），奥 聡（倫理委員長代理），佐々木冠（国際発信力強化小委員長），鄭 雅云，脇坂美和子（以上，事務局委員）

[報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
 - ・今期の組織・役員が資料によって確認された。
- (2) 今後の大会開催予定について
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第 169 回大会（2024 年度秋季大会）：2024 年 11 月 9 日～10 日，北海道大学（大会実行委員長：奥 聡氏）
 - 第 170 回大会（2025 年度春季大会）：2025 年 6 月 28 日～29 日，明海大学（大会実行委員長：嶋田珠巳氏）
 - 第 171 回大会（2025 年度秋季大会）：日程未定，岡山大学
 - 第 172 回大会（2026 年度春季大会）：日程未定，桜美林大学
 - 第 173 回大会（2026 年度秋季大会）：日程未定，長崎大学
 - 第 174 回大会（2027 年度秋季大会）：日程未定，日本女子大学

- ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (3) 各種委員会からの報告
 - ・本彙報の各委員会の項目を参照。
 - (4) 事務局からの報告
 1. 2025 年度から 5 カ年の科研費の申請について

従来の取り組みに加えて新たな取り組みとして口頭発表の優れたものについて，会場で日本語字幕付与の上英訳してオンライン公開する取り組み等の申請が報告された。
 2. 第 169 回大会の情報保障について

2024 年 11 月の第 169 回大会について，情報保障の申請はなかったことが報告された。
 3. 今後予定されているイベントについて

2024 年 12 月 21 日（土曜日）
10:00-12:00 言語権についてのセミナー
2024 年 12 月 21 日（土曜日）
13:00-16:00 国際情報発信強化ワークショップの実施予定が報告された。
 4. ロゴ募集について

日本語学会ロゴを 2024 年 9 月 27 日に募集開始し，10 月 20 日の時点で 16 件の応募があったことが報告された。
 5. 2024 年大会での不正行為とその対応について

2024 年 6 月の大会で同一内容での他学会への重複投稿があったことに伴い大会運営委員会が発表を取り消し，事務局が投稿者の所属先に連絡したことが報告された。
 6. 夏期講座の早割制度について

夏期講座の加人数を早期に把握するため，次回からは参加費の早割制度を導入することが報告された。

[審議事項]

- (1) 旅費について

「用務のための旅費等の支給に関するガイドライン」およびそれに付随する各種申し合わせについて，支出に対するガイドラインの規定については 1 大会あたり総額 12 万円を超えた場合の対応を明記

するということ、また宿泊費については定額1万円を原則とし、必要な場合は2万円を上限として実費を支給する案を評議員会に提案することについて審議を行い、これを承認した。

(2) 評議員会の開催形態について

評議員会会議規則についてオンライン出席を認めるように改めることを評議員会に提案することについて審議を行いこれを承認した。

(3) 評議員会の際の昼食について

評議員会の際に、次回170回大会において、試験的に昼食の配布なしで開催することを評議員会に提案することを承認した。

——評議員会——

日本語学会 2024 年度第 2 回評議員会

日 時：2024 年 11 月 9 日（土）10:00～11:40

場 所：北海道大学高等教育推進機構 1 階

N1, zoom によるオンライン出席を含む

出席者：定延利之(会長), 青木博史, 青柳 宏, 天野みどり, 五十嵐陽介, 伊藤さとみ, 上田 功, 上山あゆみ, 内堀朝子, 奥 聡, 尾谷昌則, 風間伸次郎, 梶 茂樹, 加藤重広, 岸本秀樹, 木部暢子, 桐生和幸, 金水敏, 窪齒晴夫, 窪田悠介, 呉人 恵, 小泉政利, 小西いずみ, 小林正人, 佐々木冠, 澤田 治, 白井聡子, 沈 力, 杉崎敏司, 滝浦真人, 田窪行則, 竹沢幸一, 田中真一, 千田俊太郎, 塚本秀樹, 時崎久夫, 中谷健太郎, 長屋尚典, 那須川訓也, 野田尚史, 林 範彦, 福井直樹, 藤代 節, 堀 博文, 堀江 薫, 松浦年男, 松本 曜, 三宅知宏, 由本陽子, 吉田和彦, 米田信子, (以上, 評議員 50 名)

委任状：19 名

オブザーバー：上野善道(顧問), 有田節子, 石井 透(以上, 会計監査委員), 小町将之(大会運営委員長), 奥 聡(倫理委員長代理), 鄭 雅云, 脇坂美和子(以上, 事務局委員)

[報告事項]

(1) 今期の組織・役員について

・今期の組織・役員が資料によって確認された。

(2) 今後の大会開催予定について

・以下の予定が報告された。

第 170 回大会 (2025 年度春季大会) :
2025 年 6 月 28 日～29 日, 明海大学(大会実行委員長：嶋田 珠巳氏)

第 171 回大会 (2025 年度秋季大会) : 日程未定, 岡山大学

第 172 回大会 (2026 年度春季大会) : 日程未定, 桜美林大学

第 173 回大会 (2026 年度秋季大会) : 日程未定, 長崎大学

第 174 回大会 (2027 年度秋季大会) : 日程未定, 日本女子大学

(3) 各種委員会からの報告

・本彙報の各委員会の項目を参照。

(4) 事務局からの報告

1. 2025 年度以降の科研費の申請について従来の取り組みに加えて新たな取り組みとして口頭発表の優れたものについて、会場で日本語字幕付の上英訳してオンライン公開する取り組み等の申請が報告された。

2. 日本語学会のロゴ募集について日本語学会ロゴを 2024 年 9 月 27 日に募集開始した。締め切りは 2025 年 1 月 31 日。11 月 1 日の時点で 30 件の応募があったことが報告された。

3. 「言語権セミナー」の開催について第 1 回「言語権セミナー」を 12 月 21 日(土) 14 時より開催することが報告された。

4. 11 月大会の情報保障について 2024 年 11 月の大会について、情報保障の申請はなかったことが報告された。

5. 夏期講座の早割制度について、参加人数を早期に把握するため次回から早割制度を導入することが報告された。

6. GEAHSS が各学会に対しておこなった情報保障についてのアンケートについて報告された。

[審議事項]

評議員会におけるオンライン出席の取扱いについて

- ・評議員会会議規則について、オンライン出席を認めることについて規則の改正案を承認した。

大会での講演・シンポジウム等の旅費について

- ・「用務のための旅費等の支給に関するガイドライン」およびそれに付随する各種申し合わせについて、支出に対するガイドラインの規定については1大会あたり総額12万円を超えた場合の対応を明記すること、また宿泊費については定額1万円を原則とし、必要な場合は2万円を上限として実費を支給ことについて承認した。

第170回大会 評議員会の際の昼食について

- ・評議員会の際に昼食を配布している件について、試験的に次回170回大会において昼食の配布なしで試行することを承認した。

——編集委員会——

1. 今期編集委員会の状況

【編集委員 2024.04～2027.03】 安藤智子(富山大学), 江畑冬生(新潟大学), 加藤重広(北海道大学), 衣畑智秀(福岡大学), 倉部慶太(東京外国語大学), 菅沼健太郎(金沢大学), 高木千恵(大阪大学), 高橋洋成(東京外国語大学), 田中牧郎(明治大学), 田村幸誠(大阪大学), 中野陽子(関西学院大学), 西山國雄(茨城大学), 藤井友比呂(横浜国立大学)以上, 13名アイウ順。

2. 今期の活動状況

2024年10月27日現在

投稿時期	投稿数	うち 査読中	投稿者 修正中
2024年4月1日 ～10月27日	16	7	3

3. 次号(167号・2025年1月刊行予定)について

投稿日 最終受理日 種類 タイトル 著者
2023/5/8 2024/7/22 一般論文 トルコ語における名詞の重複と複数行為性 鈴木 唯
2023/5/30 2024/7/24 一般論文 飯塚市方言におけるモダリティを表す『トル』 小川晋史

2023/10/1 2024/10/10 一般論文 日本手話の空間に表される否定の概念メタファー—身体性に根ざした「理解」の記号ネットワーク— 高嶋由布子・有光奈美

2023/10/24 2024/10/16 一般論文 MaxElide Effects in Mandarin Chinese Qinyi Tan, Daiko Takahashi

2024/10/21 2024/10/21 会長講演 より豊かな言語学をめざして 定延利之

2024/9/20 2024/9/20 報告 第21回国際言語学者会議報告 梶 茂樹

4. J-Stage DATA について

J-STAGE Data は、JST が運営するデータのリポジトリで、概要は以下の通り

- ・J-STAGEで論文を公開している学会誌(『言語研究』も含まれる)であれば利用できる。利用料はかからない。論文とデータは紐付けされる。
- ・『言語研究』に掲載された論文に付随するデータのみ登録できる。ただし、掲載論文とまったく同じデータは掲載不可。付随・関連するデータのみ登録可。
- ・学会が申請してあれば利用できるが、寄稿者の利用は義務ではない。執筆者が希望したデータのみを登録できる。
- ・紙幅の限られた『言語研究』で掲載できないデータを別途公開できるメリットがある。『言語研究』はページ単価が決まっており、ページ数が増えると学会の支出が増えるが、このリポジトリは無料なので、大量のデータを含む論文でもこのリポジトリを併用すればページ数は抑制できる。
- ・言語地図・方言地図(画像ファイル)や事物・事象の写真や図などの画像ファイル、語彙データ一覧、言語データ一覧などの

- CSV ファイル、音声ファイル、映像などの動画ファイル、などの公開が可能になる。
- ・ unicode などでも使えるので主な文字や IPA も表示可能。
 - ・ データの形式は、特定のファイルに依存しない形式が望ましいが、強い制限があるわけではない (Word 文書・Excel 文書、PDF は避けたい、とのこと)。公開は XHTML ファイル (xml ファイルの一種) でおこなうので、拡張性は高い。

以上

——大会運営委員会——

2024 年度第 2 回大会運営委員会

日 時：2024 年 7 月 17 日 (金) 10:00～10:40

場 所：オンライン

出席者：小町将之 (大会運営委員長)、田川拓海、吉田健二、小野智香子、甲斐ますみ、久保菌愛、中野陽子、平山真奈美、北田伸一、浅尾仁彦

[審議事項]

- (1) 第 169 回大会の準備と運営に関わるスケジュールを確認し、承認した。
- (2) 第 170 回大会以降の開催予定を確認し、承認した。

2024 年度第 3 回大会運営委員会

日 時：2024 年 9 月 6 日 (水) 14:30～16:00

場 所：オンライン

出席者：小町将之 (大会運営委員長)、田川拓海、吉田健二、小野智香子、甲斐ますみ、久保菌愛、北田伸一、浅尾仁彦、矢野雅貴、李 林 静

[審議事項]

- (1) 第 169 回大会における研究発表の採否について審議した。応募用紙の審査結果に基づき、口頭発表 22 件、ポスター発表 44 件の計 66 件 (研究発表全体で応募 110 件)、ワークショップ 6 件 (応募 7 件) を採択することとした。
- (1) 第 169 回大会のプログラムについて、

今大会のみ日程がイレギュラーになることは前大会時点で告知済みである点を確認し、原案を作成した。教室の確保等について会場校 (大会実行委員会) との調整のうえで確定することとした。

- (2) 第 169 回大会より実施する大会要旨集について、その具体的な運用手続きについて確認し、第 169 回大会では試行的に、第 170 回大会より正式に実施することを承認した。

——広報委員会——

- (1) 第 168 回大会における「会長就任講演」および「公開シンポジウム」の動画を YouTube にアップロードし、公開した。
- (2) 第 169 回大会の「採択決定済み発表題目リスト」「大会プログラム」「要旨集」などを随時ホームページに掲載した。
- (3) その他、掲載依頼のあった学会関連情報 (公募情報・研究会情報など) を随時ホームページに掲載した。
- (4) リニューアルされたホームページの不具合に対して随時対応・修正を行なった。

——学会賞選考委員会——

2024 年度第 1 回学会賞選考委員会

日 時：2024 年 5 月 30 日

開催方法：Zoom によるオンライン会議

[審議事項]

2024 年度の体制を承認し両部会の業務内容について確認した。

2024 年度第 2 回学会賞選考委員会

日 時：2024 年 8 月 3 日～2024 年 8 月 8 日

開催方法：メール審議

[審議事項]

第 168 回大会における大会発表賞の選考を行い、1 名の受賞を決定した。

2024 年度第 3 回学会賞選考委員会

日 時：2024 年 9 月 18 日～2024 年 9 月 22 日

開催方法：メール審議

[審議事項]

2024年度における論文賞の選考を行い、2名の受賞を決定した。

——夏期講座委員会——

1. 夏期講座 2024 の終了について
2024年8月26日(月)～8月31日(土)、神戸大学大学院人文学研究科棟(六甲台第2キャンパス)において、日本言語学会と神戸大学人文学研究科の共催として、日本言語学会夏期講座 2024 を開催し、予定通り12講座が開講され、172名の参加があったことが報告された。
2. 夏期講座 2026 の開催形態について
 - ・金沢大学で対面とオンラインのハイブリッドで開催することが決定した旨報告された。また、従来の6日間ではなく、5日間で開催することを決定した旨報告された。
3. 次回の科目・講師決定
 - ・より多くの参加者を集めるため、次回の科目構成を戦略的に練り、より入門的な講座の導入を検討することが報告された。

——倫理委員会——

- (1) 10月からの倫理委員
(2024年10月～2025年9月30日まで)1年任期の2年目：規約改訂の経過措置として
小野 創(委員長)、江口清子、窪田悠介、下地賀代子
(2024年10月1日～2026年9月30日まで)
任期2年：改訂後の新規約に従う
高橋真彦(副委員長)、又吉里美、高谷由貴

田口茂樹

- (2) 少数言語(話者)の言語権に関する勉強会について

倫理委員会で複数回開催する方向で進める。倫理委員会が対応すべき事案が発生した場合は、勉強会開催に関する業務の一部または全部を会長と事務局で引き取り、倫理委員会には過剰な負担がかからないようにする、という方針を報告した。第1回目として、手話に関する講演が企画中である(2024年12月21日(土)オンライン開催の予定)。詳細は決まり次第HPでお知らせする。

——国際発信力強化小委員会——

- (1) 日本言語学会論文賞論文4本を英訳している。2024年度末までに Gengo Kenkyu Anthology Vol. 5 として公開する予定である。
- (2) 2024年12月21日に日本言語学会・国際情報発信強化ワークショップ(第5回)として Andries Coetzee 教授(ミシガン大学)による英語論文執筆に関する講演とワークショップ(小論文添削)を企画している。
- (3) 参照文献欄のローマ字化を2024年度内に完了させる。

【お詫びと訂正】

本誌第166号4ページ7行目に委員のお名前の誤記がありました。お詫びして訂正させていただきます。
(誤) 木津美佳
(正) 木津弥佳

第 169 回大会

期日 2024 年 11 月 9 日 (土)・10 日 (日)

会場 北海道大学札幌キャンパス 高等教育推進機構・医学部百年記念館 (北海道札幌市)

公開シンポジウム 11 月 9 日 (土) 13:00 ~ 16:00 (高等教育推進機構 1 階 大講堂 (Sky Hall))
「役割語研究の現在地—役割語から見た言語と文化」

(基調講演) 日本語の役割語はなぜこんなに豊かなのか—文化史的観点から考える

- | | | |
|-------|--|-------|
| | | 金水 敏 |
| (S-1) | 英語における役割語—社会的マイノリティと結びつく言葉づかいをケーススタディとして | 山木戸浩子 |
| (S-2) | 韓国語における役割語—話者の「社会的役割」に注目して | 鄭 惠先 |
| (S-3) | 中国語における役割語—役割語と中国文化運動 | 河崎みゆき |
| (S-4) | ドイツ語における役割語—「言語意識史」の観点から | 細川 裕史 |

口頭発表

—第 2 日 (11 月 10 日 (日)) 13:30 ~ 16:30—

◦ A 会場 (1 階大講堂 (Sky Hall))

- | | | |
|-------|--|----------------|
| (A-1) | 13:30 ~ 疑問文断片からみる極性疑問文の選言構造について | 竹内士瑛伊 |
| (A-2) | 14:05 ~ 日本語における場所格交替の統語構造と主題階層 | 齋藤 諒弥 |
| (A-3) | 14:40 ~ コピュラ命題補部からの数量詞上昇—「節境界性」の再考— | 木村 一馬
橋本 龍弥 |
| (A-4) | 15:25 ~ Ellipsis mismatches in Mandarin Chinese:
A base-generated approach | Ting-Chi WEI |
| (A-5) | 16:00 ~ Non-initial dependent grafted speech in Japanese and modal complement ellipsis | Yosuke SATO |

◦ B 会場 (1 階 N1 教室)

- | | | |
|-------|---|--|
| (B-1) | 15:25 ~ An electroglottographic examination on the voicing contrast of Japanese stops | Shaohan Wu |
| (B-2) | 13:30 ~ Sensitivity to number agreement in English as a foreign language by native speakers of Chinese, Japanese and Thai | Edson T. MIYAMOTO
Juan Pablo RODRIGUEZ GOMEZ
Teeranoot SIRIWITTAYAKORN
Chia-lin LEE |
| (B-3) | 14:05 ~ 音声単語認知における音素とアクセントの不一致の解釈：反復プライミングによる検討 | 有賀 照道 |
| (B-4) | 16:00 ~ 「が」・「の」主語嗜好性：穴埋め式テストによる実験 | 宮崎 順大 |
| (B-5) | 14:40 ~ 四字漢語の階層構造の構築に関わる脳活動：定常状態誘発磁場による検討 | 野田 晏伎
山田 絵美
太田 真理 |

◦ C 会場 (1 階 N2 教室)

- | | | |
|-------|---|-------|
| (C-1) | 13:30 ~ 琉球祖語の狭母音及び中段母音の 15 世紀沖縄語における反映について | 尹 熙洙 |
| (C-2) | 14:05 ~ 鹿児島県大隅半島内之浦方言における与格と方向格 | 高城 隆一 |
| (C-3) | 14:40 ~ 北琉球奄美喜界島方言における指示詞由来形式を含む一人称除外形の通時的発達について—双数形を中心に— | 白田 理人 |

- (C-4) 15:25 ~ チェコ語における外部的所有構造—所有の与格／対格に着目して— 松山 芳瑛
- (C-5) 16:00 ~ ノルウェー語の「逆パンケーキ構文」の機能と分布 谷川みずき
 ◦D会場 (2階 E214教室)
- (D-1) 13:30 ~ トク・ピシンにおける「V-im 目的語」構文と「V long 目的語」構文の交替の要因 古川 智康
- (D-2) 14:05 ~ 通言語的視点から見た相対的場所表現の文法化 水野 庄吾
- (D-3) 15:25 ~ NV型複合名詞の述語化に対する計量的分析：フレーム意味論からみた機能的動機づけ 陳 奕廷
葉 秉杰
- (D-4) 16:00 ~ 「*さえは」と「までは」：意外性を表す焦点助詞と対照主題の共起性 野村 優衣
井原 駿
- E会場 (2階 E208教室)
- (E-1) 13:30 ~ クリック流入音における噪音性の音源：グイ語の事例によるハグマンの仮説の検証 中川 裕
- (E-2) 14:05 ~ オノマトベ表現と類像的ジェスチャーの分析を通じた事態把握の日中対照研究 吉田 遊野
- (E-3) 14:40 ~ How are prosodic boundaries perceived in Japanese? Shinobu MIZUGUCHI
Koichi TATEISHI

ポスター発表

—第2日 (11月10日 (日)) 11:45 ~ 13:15—

◦PA会場 (2階 E207教室)

- (P-1) The Obligatory wide scope phenomena in Japanese: A myth? Tomoya TANABE
Ryoichiro KOBAYASHI
Yosuke SATO
- (P-2) 遊戯王のネーミングにおける音象徴のパターン—モンスターの名前とレベルの相関関係について— 杜 乃岩
平田 歩
张 士毅
- (P-3) 日本語における「～たち」の獲得と構造依存性 杉崎 鈺司
佐藤 未菜
高嶋 結帆
- (P-4) 分裂文における属格主語の生起に関して 森竹 希望
前田 雅子
- (P-5) 聞き手を主語としない日本語命令文についての記述・理論的研究 井川 詩織
- (P-11) ウクライナ語における「軟らかい」唇子音 渡部 直也
- (P-12) 肯定極性項目としての日本語のイディオム表現 長谷部郁子
◦PB会場 (2階 E215教室)
- (P-13) 英語のNP V V-ingにおける動名詞補文の意味上の主語はどのようにして決定されるのか—心理動詞を中心に— 酒井 啓史
- (P-14) 「XをYに」構文における格付与とコントロール 武藤 佑輔
- (P-15) 日本語母語話者および中国語母語話者における日本語発話時の鼻音化率 濱岡 佑帆
- (P-21) 「孤立型言語」の内的関連特徴—Grambankを活用して— 風間伸次郎
- (P-22) とりたて詞の指示対象分割機能について 吉本 啓
中村 裕昭

- (P-23) 括弧付けパラドックスの構造と意味：プラン B で行こう
時崎 久夫
稲葉 治朗
桑名 保智
- (P-24) 英語における形容詞 + 動詞 -en 型複合形容詞の形成条件—結果構文との関連から—
幸 一尋
。PC 会場 (2 階 E216 教室)
- (P-25) 日本語丁寧語構文の交替における L1/2 学習者の相違点について
山田 彬亮
- (P-31) 日本語のコントロール文における空主語の処理：脳磁図による検討
山口 航輝
山田 絵美
太田 真理
- (P-32) 日本語の (非) 定形節における長距離 A 移動に関する考察
白井 悠香
- (P-33) 属性構文とされる「～をしている」について
日高 俊夫
- (P-34) 広東語における副詞的後置成分のアスペクトへの文法化について—北京語・日本語との対照的アプローチ—
許 文傑
- (P-42) 誠実性の伝達における音声エンコーディングと聞き手の知覚の間に生じる不均衡
首藤佐智子
小西 隆之

ワークショップ

—第 2 日 (11 月 10 日 (日)) 9:30 ~ 11:30—

。ワークショップ 1 (A 会場 1 階大講堂 (Sky Hall))

(W-1) 演算メカニズムの経済性の由来と帰結

企画者・司会者：宗像 孝

(W-1-1) 生成文法における経済性指針

豊島 孝之

(W-1-2) Merge の経済性条件について

後藤 亘

石井 透

(W-1-3) コピー形成における演算処理：コントロール構文の派生を基に

宗像 孝

。ワークショップ 2 (B 会場 1 階 N1 教室)

(W-2) 全体・部分・動詞の三角関係標示のストラテジー

企画者・司会者：小林 剛士

コメンテーター：風間伸次郎

(W-2-1) 三角関係標示の広域類型論

小林 剛士

(W-2-2) アラビア諸語における三角関係標示の変異と歴史

宮川 寛人

(W-2-3) 南アジアの言語における三角関係標示の超系統的傾向

小林 颯

(W-2-4) ヨーロッパ諸言語における三角関係標示とその要因

石橋 雄大

。ワークショップ 3 (C 会場 1 階 N2 教室)

(W-3) 阻止はどこで、どのように起こっているのか？

企画者・司会者：乙黒 亮

(W-3-1) 分散形態論における阻止

田川 拓海

(W-3-2) 自律モジュール文法における阻止

柚原 一郎

(W-3-3) 一般化パラダイム関数形態論における阻止

乙黒 亮

。ワークショップ 4 (D 会場 2 階 E214 教室)

(W-4) 日本語から見た世界の言語の主題と焦点

企画者・司会者：野田 尚史

(W-4-1) シンハラ語の主題と焦点

岸本 秀樹

(W-4-2) ネワール語の主題と焦点

桐生 和幸

(W-4-3) マテング語の主題と焦点

米田 信子

(W-4-4) インドネシア語の主題と焦点

原 真由子

。ワークショップ 5 (E 会場 2 階 E208 教室)

(W-5) マレー語世界の社会言語学—さまざまな変種の特質と使用実態

企画者・司会者：内海 敦子

コメンテーター：塩原 朝子

- (W-5-1) 趣旨説明およびマレー諸語とその社会言語学的状況の概観 内海 敦子
- (W-5-2) マレー語世界の全容と歴史：カリマンタン変種を手がかりに 稲垣 和也
- (W-5-3) 活力のある民族語とマレー語の使い分け：ジャワ語との二言語併用地域のコードミキシングとコードスイッチング スリ・ブディ・リスリ
- (W-5-4) 複数のアイデンティティを映す戦略としてのコード・ミキシング：マカッサル・インドネシア語の事例から 塩原 朝子
- (W-5-5) 多民族地域におけるマレー語の浸透力：北スラウェシ州の事例から 内海 敦子
- (W-5-6) トランスミグラシ（近年の国内移民）と共通語としてのマレー語の姿 三宅 良美
- ワークショップ6（F会場 2階 E201教室）
- (W-6) 論争する言語学の過去・現在・未来：議論を深め、実りあるものとするために 企画者：山泉 実
司会者：田中 太一
コメンテーター：窪田 悠介
- (W-6-1) 誤解の効用とその限界：黒田久野論争をめぐって 田中 太一
- (W-6-2) 西垣内西山論争における齟齬：非飽和名詞の定義と“翻訳”を中心に 山泉 実
- (W-6-3) 互いの研究対象を見極めることの重要性：『日本語文法』における終助詞ヤをめぐる議論の検討 西畑 宏紀

◇退 会

国内通常会員：40名
在外通常会員：4名
国内学生会員：70名
在外学生会員：2名
国内团体会員：2名
116名

◇入 会

国内通常会員：18名
在外通常会員：2名
国内学生会員：9名
29名

2024 年度役員

【会長】

定延利之

【顧問】

上野善道, 影山太郎, 梶 茂樹, 窪蘭晴夫,
柴谷方良, 田窪行則, 早田輝洋, 福井直樹,
松本克己

【常任委員 (GEAHSS 担当†, 言語系学会連 合担当‡)】

青木博史, 上山あゆみ, 菊澤律子, 小林
正人‡, 滝浦真人, 千田俊太郎, 中山俊秀,
広瀬友紀, 堀江 薫†, 松浦年男, 宮本陽一

【事務局】

南本 徹 (事務局長), 鄭 雅云, 脇坂美和子

【評議員】

青木博史, 青柳 宏, 赤楚治之, 天野みどり,
庵 功雄, 五十嵐陽介, 伊藤さとみ, 井上 優,
上田 功, 上山あゆみ, 内堀朝子, 江口 正,
江畑冬生, 大島 David 義和, 大津由紀雄,
奥 聡, 尾谷昌則, 越智正男, 小野 創,
風間伸次郎, 梶 茂樹, 加藤重広, 岸本秀樹,
北原久嗣, 北原真冬, 木部暢子, 桐生和幸,
金水 敏, 窪蘭晴夫, 窪田悠介, 呉人 恵,
小泉政利, 小西いずみ, 小林正人, 斎藤 衛,
佐々木冠, 澤田 治, 白井聡子, 沈 力,
杉崎鉦司, 滝浦真人, 田窪行則, 竹沢幸一,
田中伸一, 田中真一, 千田俊太郎, 塚本秀樹,
時崎久夫, 中谷健太郎, 長屋尚典, 那須川
訓也, 成田広樹, 西村義樹, 野田尚史, 林 徹,
林 範彦, 原田なをみ, 広瀬友紀, 福井直樹,
藤代 節, 堀 博文, 堀江 薫, 松浦年男,
松本 曜, 三宅知宏, 宮本陽一, 由本陽子,
吉田和彦, 米田信子, 鷺尾龍一

【編集委員会】

加藤重広 (委員長), 安藤智子, 江畑冬生,
衣畑智秀, 倉部慶太, 菅沼健太郎, 高木千恵,

高橋洋成, 田中牧郎, 田村幸誠, 中野陽子,
西山國雄, 藤井友比呂

【特別編集委員】

Lisa Cheng, Wesley Jacobsen, 金 周源, Terje
Lohndal, Andrej Malchukov, Armin Mester,
富岡 諭

【大会運営委員会】

小町将之 (委員長), 浅尾仁彦, 小野智香子,
甲斐ますみ, 北田伸一, 久保蘭愛, 田川拓海,
中野陽子, 平山真奈美, 矢野雅貴, 吉田健二,
李 林靜

【広報委員会】

杉崎鉦司 (委員長), 蝦名大助, 大滝宏一,
児倉徳和, 志波彩子, 高橋久子, 月田尚美

【夏期講座委員会】

木山幸子 (委員長), 入江浩司, 内堀朝子,
古賀裕章, 林 範彦, 堀 博文

【学会賞選考委員会】

滝浦真人 (委員長), 青木博史, 上山あゆみ,
江畑冬生, 小野智香子, 加藤重広, 小町将之,
田中真一, 長屋尚典, 広瀬友紀, 堀江 薫,
米田信子

【倫理委員会】

小野 創 (委員長), 江口清子, 窪田悠介,
下地賀代子, 高橋真彦, 高谷由貴, 田口茂樹,
又吉里美

【国際発信力強化小委員会】

佐々木冠 (委員長), 李 勝勲, 宇都木昭,
倉部慶太, 澤田英夫, 白石英才, 沈 力,
中村 渉, 平子達也, 山越康裕

【会計監査委員会】

有田節子, 石井 透